

令和6年度 学校評価実施報告書

学校名（松尾中学校）

教育目標

自律（よりよい生き方を目指し、自分がどうするべきかを考え、行動する力の育成）

協働（多様な考え方・生き方を尊重し、互いを高め合い、共通する目標達成・

課題解決に向けて取り組む力の育成）

探究（粘り強く学び続け、新たな方策や考えを探究する力の育成）

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
自己評価	<p>教育目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自律」成果として、生徒の自己指導力や主体的な学びの習慣が向上しているが、Mノートの活用方法に改善の余地があり、特に家庭学習の計画と管理に対する意識が低下している。 「協働」成果として、生徒同士の協力やコミュニケーションが促進されている。特にペア学習やグループ学習の導入が効果的であった。課題としては、保護者の認識と生徒の実感に差があり、保護者への説明や連絡が不足している可能性がある。 「探究」成果として、探究学習を通じて生徒の思考力や問題解決能力が向上している。また、総合的な学習の時間や教科横断的な探究活動を学校として確立することで、基礎学力の定着と探究的な学びの両立を目指す。 生活習慣の改善として、健康教育を強化し、食事や睡眠の重要性についての啓発活動を行う。 デジタル機器の使用として、親子共々適切な使い方を学ぶ機会を提供し、自己管理の意識を向上させる。 いじめ防止として、継続的にいじめアンケートを行い、いじめを見逃さない指導を徹底する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況については概ね満足のいく結果である。しかし、不登校生徒が多いのが気になる。そのためには、ゆとりのある昼食時間と食教育を充実させてほしい。 地域が協力して、子供たちに地域の良さを知ってほしい。そのためには講演や講師として、様々な観点から学校とかかわっていきたい。 課題への対策を考えるためにも経年変化がわかるようにし、積み上げてほしい。 Mノートの活用を推奨し、子供にスケジュール管理ができるように指導してほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年10月24日	学校運営協議会
最終評価	令和7年2月27日	学校運営協議会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標

- 探究学習を通した自己指導力の向上
- 主体的・対話的で深い学びを習慣化する態度の育成
- 「わかる」「できる」「楽しむ」授業の実践

具体的な取組

～知識・技能の確かな定着からその活用と主体的な「学び」の創造へ～

①ICT（デジタルドリルや動画授業、東書web等）を活用した学習の実践と研究

- ・基礎・基本の徹底
- ・支援を要する生徒への活用
- ・個に応じた課題設定への取組
- ・さまざまな教育活動での主体的な活用の研究（使用から活用へ）

②課題解決型の授業実践と研究

- ・Mノート活用による、「自ら学び、自ら律する」力の育成

Mノートを活用することで、

- 1 時間管理（有限であることを認識する）
- 2 見通し力（逆算力も身につけさせる）
- 3 学習習慣（計画性を持って取り組ませる）
- 4 自己肯定感（達成感や成就感を味わわせる）
- 5 能動的学習力（自ら取り組むことを、判断・決定するさせる）の育成を目指す。

- ・PDCAサイクルの定着【特に「P」（目標課題設定）と「C」（振り返り・改善）の重点化】

- ・指導と評価の一体化のさらなる研究のための教科会を充実させる。

- ・全国学力・学習状況調査、学習確認プログラムの結果分析や指導方法の工夫とさらなる改善に取組む。

③協働学習と個別最適な学びを活用した授業改善

- ・反転学習を取り入れ、授業と家庭学習の連携を構築する。

- ・キャリア学習を中心に据え、総合的な学習を軸とした教科横断的な学習の推進する。

(取組結果を検証する) 各種指標

○全国学力・学習状況調査 ○学習確認プログラム ○学校評価アンケート

○生徒指導の三機能チェックシート【授業場面】

中間評価

各種指標結果

*学習確認プログラム 2年生 全市平均+0.5ポイント

(国 +0.2 社 -1.6 数 +2.9 理 +0.8 英 +0)

3年生 全市平均+2ポイント

(国 +1.6 社 +2.3 数 +2.9 理 +1.2 英 +2.4)

*全国学力・学習状況調査(3年生) 全国平均正答率

国 +0.9% 数 +6.5%

*学校評価アンケート「よくできている」「だいたいできている」と答えている割合

「授業はわかりやすく、基礎・基本的な学習を理解し、学力が身についていると思いますか。」

生徒(1年) 91% 生徒(2年) 92% 生徒(3年) 95% 保護者 67%

「これまでの授業で、課題解決にむけて自分で考え、自分から取り組みましたか。」

生徒(1年) 86% 生徒(2年) 92% 生徒(3年) 96% 保護者 64%

「授業での話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」

生徒（1年）89%	生徒（2年）89%	生徒（3年）91%	保護者73%
「Mノートを活用するなど、時間を管理し、計画を立てて家庭学習をしていますか。」			
生徒（1年）75%	生徒（2年）65%	生徒（3年）65%	保護者52%
「ICT（タブレット端末など）を授業や自学で活用できていますか。」			
生徒（1年）82%	生徒（2年）92%	生徒（3年）92%	保護者70%
*生徒指導の三機能チェックシート「よくしている」と答えた割合			
○一人一人の生徒が主体的に学べるように、個に応じた支援を行っている。教員 29%			
○ペア学習やグループ学習を取り入れて、一人一人が活躍する場面を作っている。			教員 14%
			○お互いに意見交流し合ったり、教え合ったりするペア学習やグループ学習を取り入れている。
			教員 14%
*クラスマネージメント 領域ごとにスコア100を超えている場合は良好			
・クラスのまとめり	・クラスのやすらぎ	・友達とのつながり	
(全クラススコア100をすべての領域で超えている)			

自己評価

分析（成果と課題）

*学校評価アンケートから

授業においては、生徒が理解し学力が向上していると感じていることと、生徒が主体的に取り組んでいることが伺える。また、課題の解決に向けて協力する力や新たな価値を創造する探究力を身に着けること、目標に沿った協働的な学びが展開できていることがわかる。課題としては、Mノートの活用方法などを検討する。生徒と保護者で回答に差があるのが、授業力や自ら取り組む力、協働的な力など子供たちが出来ていると答えていいるのに対し、保護者の認識では低いのがわかる。これは、保護者への発信や細やかな連絡、授業や評価の仕方など説明が少し足りないのではないかと感じる。

*学習確認プログラムから

【2年生】

国語では、文法問題の定着が見られる。古典の基本的な問題は抑えられているが、再確認が必要である。社会では、教科書や地図帳を活用し、情報を取捨選択する力が育っている。学習意欲や姿勢により成績に差が出ている。数学では、計算プリントで基礎学力が定着。データの活用に関しては正答率が高い。理科では、実験を多く行った物理分野で正答率が高い。思考の正答率が下がり、無解答率が高い問題がある。英語では、リスニングに自信を持って取り組めている。小テストで家庭学習を促し、D層の生徒が伸びた。

【3年生】

国語では、古典分野の正答率が低く、文法に関する事項の定着がしていなかった。現代文でも長い文を正確に捉えることに難点があるようだ。社会では、地理的分野は全市を上回る成績となった。歴史的分野では中世から近世の知識が定着していない。数学では、既習内容（1・2年）の定着が見られる。関数領域の正答率が低く、A層の生徒が少ない。理科では、対話型授業による班活動でA層が増加し、D層が減少している。地学領域と思考・判断・表現の観点で全市平均以下となった。英語では、自分の意見や考えを書く活動を多くしたことで、書くことの領域が向上したいと考えられる。助動詞や比較などの文法の理解が不十分である。

分析を踏まえた取組の改善

	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会や教科会で、 <p>① つけたい力の明確化 ②知識・理解と思考・判断の時間設定 ③探究学習への方策について研究を深め、実践につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個の学び」と協働学習による教科学習の定着を図る。 ・学習確認プログラムの結果から主体的に学習に取り組む態度を育成するために、グループ学習、ペアワーク、振り返りや探究の時間を取り組むなどの実践を行ってきたが、A層とD層で学習の定着に大きな差が生じているように思われる。教科書を読む、基礎基本の用語を活用できるようになるなど、学習の定着を図る工夫を授業で行う必要があると思われる。（2年） ・基礎学力の定着を目標にする授業と、探究的な課題に取り組み、思考力を高める授業とのバランスに注意し、徹底的な基礎学力の定着と、思考力の向上を目指す。その中で対話型授業が行えたらよいと思う。（3年）
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>○学習確認プログラム ○学校評価アンケート ○生徒指導の三機能チェックシート【授業場面】</p>

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

学力については特にないが、生徒と保護者の捉え方に乖離があるので、それについては工夫し、伝えていけるようにしていけばよいのではないか。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

*学習確認プログラム 1年生 全市平均+0.8ポイント 全学年10月実施

(国+0.6 社-1.1 数+3.5 理-0.2 英+1.6)

*学習確認プログラム 2年生 全市平均+1.2ポイント

(国-1.5 社+2.4 数+0.9 理+5.0 英-0.8)

3年生 全市平均+1.8ポイント

(国+0.3 社-2.4 数+2.5 理+2.1 英+2.7)

*学校評価アンケート「よくできている」「だいたいできている」と答えている割合

() 内は10月と比較した結果。

「授業はわかりやすく、基礎・基本的な学習を理解し、学力が身についていると思いますか。」

生徒（1年）90.4% (-0.6) 生徒（2年）88.4% (-3.6) 生徒（3年）93.8% (-1.2)

保護者 57.2% (-9.8)

「これまでの授業で、課題解決にむけて自分で考え、自分から取り組みましたか。」

生徒（1年）82.3% (-3.7) 生徒（2年）84.8% (-7.2) 生徒（3年）93.7% (-2.3) %

保護者 67.2% (+3.2)

「授業での話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」

生徒（1年）87.1% (-1.9) 生徒（2年）87.5% (-1.5) 生徒（3年）94.8% (+3.8)

保護者 71.6% (-1.4)

「Mノートを活用するなど、時間を管理し、計画を立てて家庭学習をしていますか。」

生徒（1年）41.9% (-33.1) 生徒（2年）43.7% (-21.3) 生徒（3年）51% (-14)

保護者 49.2% (-2.8)

「ICT（タブレット端末など）を授業や自学で活用できていますか。」

生徒（1年）72.5% (-9.5) 生徒（2年）94.6% (+2.6) 生徒（3年）87.5% (+4.5)
保護者 70.8% (+0.8)

*生徒指導の三機能チェックシート「よくしている」と答えた割合

○一人一人の生徒が主体的に学べるように、個に応じた支援を行っている。 教員 54 %
○ペア学習やグループ学習を取り入れて、一人一人が活躍する場面を作っている。

教員 50 %

○お互いに意見交流し合ったり、教え合ったりするペア学習やグループ学習を取り入れている。

教員 58 %

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・学習確認プログラムについては、全学年全市平均を上回っている。しかしながら各学年各教科について課題が見られる。国語については、文学的な文章の読解力、説明的な文章の読解力の向上。社会は、世界の諸地域、日本の姿に関する知識の強化。数学は、総合問題の解答力、分配法則を使った計算の強化。理科は、生物と環境に関する知識を深める。英語は、書く力、読む力の向上が上げられる。こういった課題を教科会などで対策を練っていく必要がある。
- ・「授業はわかりやすく、基礎・基本的な学習を理解し、学力が身についていると思いますか。」の問い合わせでは、生徒の評価は全体的に高いですが、2年生については評価が大きく下がっている。また、保護者の評価は大幅に低下しています。
- ・「Mノートを活用するなど、時間を管理し、計画を立てて家庭学習をしていますか。」では、すべての学年で評価が大幅に減少しています。特に1年生の評価が最も大きく減少しています(-33.1%)。これは、家庭学習の計画と管理に対する生徒の意識や実践が低下している可能性があり、特に中学1年生は、定期考查や確プロに向けて以外で、まだ効果的な学習習慣を身につけていないかもしれません。
- ・個に応じた支援については、54%の教員が「よくしている」と回答しており、生徒一人一人に対する個別支援が一定の成果を上げようとしていることが分かり、生徒が主体的に学べる環境が整いつつあることにつながる。また、ペア学習やグループ学習の導入、意見交流や教え合いについても、50%以上の教員が活発を取り入れていると回答しており、生徒が活躍する場面や学び合いの取り組みが進み、生徒同士の協力やコミュニケーションが促進されていることが期待される。

分析を踏まえた取組の改善

- ・生徒同士が協力して学ぶことや理解を深めたり、コミュニケーション能力を向上させたりする効果を得るために、協働学習を取り入れる。
- ・個に応じた学習を進め生徒自身が自分の学習スタイル（視覚、聴覚、体感など）を理解することと、教師は多様な学習スタイルに対応するため、視覚的資料、音声資料、実践的な活動などを取り入れていけるようにする。また、生徒が自分で学習計画を立て、時間を管理する能力も身に付けさせることが必要である。
- ・生徒が家庭学習の計画と管理を効果的に行えるように、具体的な方法やツールの提供を強化することの必要性と、Mノートの活用方法を具体的に指導する他、効果的な家庭学習の方法を提供することを考えいかなければならない。
- ・総合的な学習の時間を利用した、探究活動やグループワークを増やし、生徒が自ら考え、取り組む機会を提供すること。また、成功体験を積むことで自信を持たせることも重要である。

	<ul style="list-style-type: none"> 教員が個別支援やペア学習、グループ学習の効果的な方法を学べる研修を定期的に実施し、教員同士で成功事例を共有し、互いに学び合う機会を増やすことも重要である。 生徒の主体性を引き立たせるために、授業設計や生徒の意見を取り入れ、自ら課題を設定し、解決に向けて取り組む探究活動を活性化させていかなければならない。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ノートをうまく活用できるように、指導してほしいという反面、計画的に学習や行動をとることが苦手な子にとっては、マイナスに働くこともある。 M ノートなどの計画手帳は、全市的にどのくらい使っているのか。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 自らを律し、社会性を身につける生徒の育成 地域や社会に貢献する生徒の育成 多様性を尊重し、いじめや差別・偏見を許さない生徒の育成 <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育目的「未来社会の中でよりよく生きていける力の育成」の実現のため、取組を推進する。 生徒行動目標「人・時・学を大切にする生徒になろう」をベースに、その行動規範に則った「生徒指導の三機能」の取組を行い、<u>生徒の自尊感情や自己有用感（肯定感）、規範意識の向上</u>を目指す。 周囲の人（友達・親・地域・教職員）への感謝の気持ちや、社会性の向上につなげるために、個人・学年・部活動等を単位とした、<u>自発的活動の取組を推進する</u>。 道徳・人権学習を充実させ、<u>いじめや差別・偏見を許さない生徒の育成</u>をする。 多様性を尊重し、自他を大切にする環境の中で、挑戦する生徒と支える生徒を育成する。 「<u>自ら学ぶ力（探究のプロセス）</u>」と「<u>自ら律する力（自律プロセス）</u>」を高める<u>教育活動</u>の研究を推進し、将来展望を幅広く抱ける力を育成する。 生徒会活動、部活動、学年・学校行事を通して、達成感や充実感を味わえるよう生徒の自治的能力の伸長を目指す。 <p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <p>○学校評価アンケート ○クラスマネージメント ○教育相談アンケート</p>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p>*学校評価アンケート「よくできている」「だいたいできている」と答えている割合 「自分には良いところがあるとおもいますか」</p> <table> <tr> <td>生徒（1年）79%</td><td>生徒（2年）73%</td><td>生徒（3年）81%</td><td>保護者99%</td></tr> </table> <p>「学校行事・生徒会活動・部活動などに積極的に取り組み、充実感を感じていますか。」</p> <table> <tr> <td>生徒（1年）90%</td><td>生徒（2年）87%</td><td>生徒（3年）92%</td><td>保護者86%</td></tr> </table>	生徒（1年）79%	生徒（2年）73%	生徒（3年）81%	保護者99%	生徒（1年）90%	生徒（2年）87%	生徒（3年）92%	保護者86%
生徒（1年）79%	生徒（2年）73%	生徒（3年）81%	保護者99%					
生徒（1年）90%	生徒（2年）87%	生徒（3年）92%	保護者86%					

「人の嫌がることや悪口を言わず、困っている人を気遣うことが出来ていますか」

生徒（1年）88% 生徒（2年）92% 生徒（3年）95% 保護者92%

「学校の決まりや公共のマナーを守っていますか。」

生徒（1年）95% 生徒（2年）95% 生徒（3年）98% 保護者94%

「地域や社会をよりよくするために、その課題に対して何をすべきか考えていますか」

生徒（1年）61% 生徒（2年）69% 生徒（3年）72% 保護者58%

*クラスマネージメント 領域ごとにスコア100を超えている場合は良好

・クラスのまとまり ・クラスのやすらぎ ・友達とのつながり

(全クラススコア100をすべての領域で超えている)

自己評価

分析（成果と課題）

- 行事や生徒会活動、部活動を通して、協働性も育まれ、活動も積極的に行えている。
- 規範意識は非常に高い。他者に対しても寛容である。
- 「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えていますか」の質問には、低い数値が出ているため、社会に開かれた教育活動の推進が必要となる。
- 保護者の回答から、「子どもは、自分には、よいところがあると思っていますか」という問い合わせでは、100%に近い保護者があると思うと答えている。このように肯定的に捉えることは、子供の自己肯定感や自信を育む上で非常に重要なことで、多くの研究でも、親が子供の長所に注目し、それを認めることができることが子供の成長に大きな影響を与える非常に重要である。

分析を踏まえた取組の改善

- 自己肯定感や自己有用感が増すような教育活動を行うためには、自分が必要とされるような取組、社会に貢献できる、また年下の子供たちに教えるなど具体的な取り組みが必要とされる。
- 地域や社会に目を向ける機会を教科や日常生活の中で提示し、社会性を育む行動につなげる。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

○学校評価アンケート ○クラスマネージメント

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

地域とのつながりを考えていくのであれば、コロナ禍前に行っており、地域の職場から講師を招いて講演や実践を行っていたので再開することが良いという意見が出た。できるだけ協力することであった。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

*学校評価アンケート「よくできている」「だいたいできている」と答えていた割合

「自分には良いところがあるとおもいますか」

生徒（1年）69.4% (-9.6) 生徒（2年）68.7% (-4.3) 生徒（3年）81.2% (+0.2)

保護者 99.6% (+0.3)

「学校行事・生徒会活動・部活動などに積極的に取り組み、充実感を感じていますか。」

生徒（1年）89.5% (-0.5) 生徒（2年）89.3% (+2.3) 生徒（3年）92.7% (+0.3)

保護者 87.2% (+1.7)

	「人の嫌がることや悪口を言わず、困っている人を気遣うことが出来ていますか」
	生徒（1年）89.5% (+1.5) 生徒（2年）93.8% (+1.8) 生徒（3年）95.8% (+0.8)
	保護者 93.2% (+1.2)
	「学校の決まりや公共のマナーを守っていますか。」
	生徒（1年）95.6% (+0.6) 生徒（2年）93.8% (-1.2) 生徒（3年）98.9% (+0.9)
	保護者 94.8% (+0.8)
	「地域や社会をよりよくするために、その課題に対して何をすべきか考えていますか」
	生徒（1年）83% (+21) 生徒（2年）64.3% (-3.7) 生徒（3年）79.4% (+7.4)
	保護者 56.4% (-1.6)

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己肯定感については、1年生と2年生の自己肯定感が減少していますが、3年生はほぼ変わらず高いままであるが、保護者の評価は非常に高い。 ・学校行事・生徒会活動・部活動への積極的な取り組みについては、全体的に高い割合を維持している。特に2年生の増加が目立ち、保護者の評価も上昇している。 ・他者への気遣いや学校の決まり、公共のマナーの遵守については、全体的に高い割合を示しているが、2年生のみ若干の減少が見られ、これは規範意識が少し薄れていることが伺える。 ・地域や社会への関心については1,3年が大幅に増加している。これは地域を知る学習を行っていることなどが考えられる。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を向上させるためには、生徒の良い行動や成果を積極的に認め、具体的には、クラス内で「良いところ発見」活動を定期的に行うなど、生徒同士でポジティブなフィードバックを交換したりすることが有効だと考える。学校行事、生徒会活動を主体的に取り組ませることで、自分や仲間の自己有用感も高まるであろう。 ・マナー遵守については、社会的な背景から校則の見直しなどを行っているため、生徒会を中心としたリーダー育成に努める。そのことにより模範となる行動を示し、他の生徒に良い影響を促したい。 ・地域活動への参加促進については、地域のボランティア活動やイベントに積極的に参加する機会を増やし、地域の課題について考えるディスカッションやプロジェクトを授業に取り入れるようとする。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（3）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・健康で心身ともにたくましい生徒 ・生命を守る自己判断力の育成 ・基本的生活習慣や食生活を中心とした保健教育の充実

具体的な取組

- ① 毎朝担当による健康チェックを実施し、生徒の健康状態を把握するとともに、健康に対する意識の啓発を図る。
- ② 自己の基本的生活習慣を見直し、食生活や睡眠時間を中心とした健康保持を意識付け、望ましい生活習慣の確立を図らせる。
- ③ 毎月発行の保健室だよりや健康診断結果、そして2回の生活習慣アンケートから、健康に対する啓発を行い、保健指導の充実を図る。
- ④ 部活動ガイドラインに則って部活動に取り組ませ、部活動の指導やキャプテン会議を通して、心身共に健康を維持増進させることの大切さを実感させる。
- ⑤ 生徒の実態と、各学年の発達段階に合わせた性教育の実践を推進する。
- ⑥ 健康と安全について啓発する各教室を実施する。

1年生非行防止教室、2年生防煙教室・救急救命講習会、3年生薬物乱用防止教室

(取組結果を検証する) 各種指標

- 学校評価アンケート ○生活習慣アンケート

中間評価

各種指標結果

*学校評価アンケート「よくできている」「だいたいできている」と答えている割合

「食事や睡眠時間など規則正しい生活習慣が身についていますか」

生徒（1年）79% 生徒（2年）80% 生徒（3年）82% 保護者68%

「携帯電話・スマートフォンやPCの使い方について、家人と約束したことを守っていますか。」

生徒（1年）81% 生徒（2年）84% 生徒（3年）88% 保護者62%

「困ったことや悩みを相談できる人はいますか。」

生徒（1年）83% 生徒（2年）84% 生徒（3年）89% 保護者97%

*生活習慣アンケート（全校平均）

○睡眠時間 8時間以上20% 約8時間23%

約7時間～7時間半34% 約6時間～6時間半 16%

○朝食摂取 毎日食べる80% 食べる日のほうが多い 14%

○スマホ・PC・ゲーム等の利用時間（学習以外）

約5時間以上19% 約4時間～5時間12%

約3～4時間16% 約2～3時間23% 約1～2時間20%+

自己評価

分析（成果と課題）

- ・基本的な生活習慣は概ね身についているようである。
- ・ほとんどの生徒が2～3時間程度はスマホを利用していると答えている。
- ・本年度は、保健室利用が増えている。睡眠不足や体調管理面での不調が目立つ。
- ・夏場の高温環境下でも熱中症などはなかったが、今後も練習中の適度な休憩と水分補給、休憩時間もエアコンの利いた部屋で過ごすなどの対策が必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・朝の健康観察において、継続して生徒観察を丁寧に行う。
- ・睡眠時間の必要性について、保健だよりと「講演会」の活用を検討する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・食育について、委員会活動を取り入れ、通信を用いた啓発活動を行う。 ・情報モラルの指導を引き続き、行うと同時に家庭への啓発活動を行う。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>○学校評価アンケート ○生活習慣アンケート</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの生徒が2時間程度のスマホを使用しているとあるので、SNSによるトラブルを心配している。 ・SNSの事例などで保護者がわかっていないこともあるので、啓発活動が必要なのではないか。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>*学校評価アンケート「よくできている」「だいたいできている」と答えている割合 「食事や睡眠時間など規則正しい生活習慣が身についていますか」</p> <table> <tbody> <tr> <td>生徒（1年）72.6% (-6.4)</td><td>生徒（2年）75% (-5)</td><td>生徒（3年）80.2% (-1.8)</td></tr> <tr> <td>保護者 60.8% (-7.2)</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>「携帯電話・スマートフォンやPCの使い方について、家人と約束したことを守っていますか。」</p> <table> <tbody> <tr> <td>生徒（1年）73.4% (-7.6)</td><td>生徒（2年）81.3% (-2.7)</td><td>生徒（3年）86.4% (-1.6)</td></tr> <tr> <td>保護者 56% (-6)</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>「困ったことや悩みを相談できる人はいますか。」</p> <table> <tbody> <tr> <td>生徒（1年）92% (+9)</td><td>生徒（2年）84.8% (+0.8)</td><td>生徒（3年）92.7% (+3.7)</td></tr> <tr> <td>保護者 95.2% (-1.8)</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>*生活習慣アンケート(全校平均)</p> <table> <tbody> <tr> <td>○睡眠時間</td><td>8時間以上 17% (+1.4)</td><td>約8時間 22% (-4)</td></tr> <tr> <td></td><td>約7時間～7時間半 39% (+2.7)</td><td>約6時間～6時間半 15% (-0.6)</td></tr> <tr> <td>○朝食摂取</td><td>毎日食べる 80% (+2)</td><td>食べる日のほうが多い 10% (-6)</td></tr> <tr> <td>○スマホ・PC・ゲーム等の利用時間（学習以外）</td><td>約5時間以上 20% (+8.9)</td><td>約4時間～5時間 11% (-2)</td></tr> <tr> <td></td><td>約3～4時間 16% (+0.4)</td><td>約2～3時間 25% (-3)</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>約1～2時間 19% (-1.1)</td></tr> </tbody> </table>	生徒（1年）72.6% (-6.4)	生徒（2年）75% (-5)	生徒（3年）80.2% (-1.8)	保護者 60.8% (-7.2)			生徒（1年）73.4% (-7.6)	生徒（2年）81.3% (-2.7)	生徒（3年）86.4% (-1.6)	保護者 56% (-6)			生徒（1年）92% (+9)	生徒（2年）84.8% (+0.8)	生徒（3年）92.7% (+3.7)	保護者 95.2% (-1.8)			○睡眠時間	8時間以上 17% (+1.4)	約8時間 22% (-4)		約7時間～7時間半 39% (+2.7)	約6時間～6時間半 15% (-0.6)	○朝食摂取	毎日食べる 80% (+2)	食べる日のほうが多い 10% (-6)	○スマホ・PC・ゲーム等の利用時間（学習以外）	約5時間以上 20% (+8.9)	約4時間～5時間 11% (-2)		約3～4時間 16% (+0.4)	約2～3時間 25% (-3)			約1～2時間 19% (-1.1)
生徒（1年）72.6% (-6.4)	生徒（2年）75% (-5)	生徒（3年）80.2% (-1.8)																																			
保護者 60.8% (-7.2)																																					
生徒（1年）73.4% (-7.6)	生徒（2年）81.3% (-2.7)	生徒（3年）86.4% (-1.6)																																			
保護者 56% (-6)																																					
生徒（1年）92% (+9)	生徒（2年）84.8% (+0.8)	生徒（3年）92.7% (+3.7)																																			
保護者 95.2% (-1.8)																																					
○睡眠時間	8時間以上 17% (+1.4)	約8時間 22% (-4)																																			
	約7時間～7時間半 39% (+2.7)	約6時間～6時間半 15% (-0.6)																																			
○朝食摂取	毎日食べる 80% (+2)	食べる日のほうが多い 10% (-6)																																			
○スマホ・PC・ゲーム等の利用時間（学習以外）	約5時間以上 20% (+8.9)	約4時間～5時間 11% (-2)																																			
	約3～4時間 16% (+0.4)	約2～3時間 25% (-3)																																			
		約1～2時間 19% (-1.1)																																			

自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣においては、全学年で「規則正しい生活習慣が身についている」と答えた割合が減少しています。特に1年生と2年生の減少が目立つ。保護者も評価も減少しており、全体的に生活習慣の改善が必要である。 ・デジタル機器の使用ルールの遵守について、生徒全体で「家人と約束したことを守っている」と答えた割合が減少している。特に1年生の減少が顕著である。保護者の評価も減少しており、デジタル機器の使用に関するルールの見直しが必要である。 ・相談できる人の存在には、生徒全体で「困ったことや悩みを相談できる人がいる」と答えた割合が増加している。特に1年生の増加が顕著である。保護者の評価も高く、ほぼ全員が相談できる人がいると答えている。 ・8時間以上の睡眠をとる生徒の割合は、少し増えたものの低い（17%）ため、さらなる改善が必要である。 ・朝食を毎日とらない生徒が20%いるため全員が朝食をとるような取り組みが必要である。
--------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ・PC・ゲーム等を約5時間以上利用する生徒の割合が増加(+8.9%)しており、これが健康や学習に与える影響を考慮させることが必要である。
学校 関係者 評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣についての評価が減少していることで、健康教育の強化を行い、食事や睡眠の重要性について授業や栄養士、医師による講演など効果的な方法を模索する。また、生活習慣を自己評価できるようなシートを使用するなど改善点を見つけやすくすると同時に、家庭教育講座を利用して、保護者向けに生活習慣の改善に関する情報提供やセミナーを開催し、家庭でのサポートを促す。 ・デジタル機器の使用方法など、親子共々適切な使い方を勉強する機会を作る。 ・相談できる環境については、入学当初から比べ上がってきていることから、学年、学級経営については概ね満足のいく結果となっている。また、今年度実施したアート対話や生徒同士が相談できるピアサポートを取り入れることで、自己有用感や自己肯定感も身に付けていけるようとする。 ・睡眠教育の実施とスケジュール管理の指導を行い、Mノートなどを利用し、効果的な時間管理方法を教え、宿題や勉強時間を計画的に行うことで、十分な睡眠時間を確保できるようにする。 ・朝食の重要性を啓発し、朝食が学習成績や集中力に与える影響についての情報を提供し、朝食を摂る習慣を促進する。また、忙しい朝でも手軽に作れる健康的な朝食レシピを保健だよりなどで保護者に紹介し、実践しやすい環境を整える。 ・スマホ・PC・ゲーム等の利用時間については、自己管理の意識向上を図るとともに、代替活動の推奨（スポーツや読書、アートなど、デジタル機器以外の活動を推奨）する取組も行いたい。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール管理をMノートですることにより、生活習慣の改善が出来ればと思う。

(4) 学校独自の取組

重点目標	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律型行動ができる態度の育成
具体的な取組	<ol style="list-style-type: none"> ① Mノートの効果的な活用 <ul style="list-style-type: none"> ・目的・目標を意識し、先を見通す力の育成 ・逆算をして、修正し、次の行動へ繋ぐことの習慣化 ② 総合的な学習の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を系統立て、キャリア教育を中心とした学習の推進 ・探究型を柱とした内容の構築 ③ 図書館の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な読書の推進 ・情報活用能力の推進と図書館教育との連携 ④ 安心できる環境作り

・アセスの分析を活用した教育活動の研究

(取組結果を検証する) 各種指標

- 学校評価アンケート ○生徒指導の三機能チェックリスト【生活場面】
○アセスの分析

中間評価

各種指標結果

*学校評価アンケート「よくできている」「だいたいできている」と答えている割合
「読書（朝読書）の習慣がついていますか。」

生徒（1年）76% 生徒（2年）83% 生徒（3年）61% 保護者42%

「将来の自分の夢や目標を持っていますか。」

生徒（1年）76% 生徒（2年）70% 生徒（3年）79% 保護者74%

「難しいことでも、失敗を恐れないで、挑戦していますか。」

生徒（1年）72% 生徒（2年）75% 生徒（3年）82% 保護者56%

「自分がよりよくなるように考え、行動・実践していますか。」

生徒（1年）84% 生徒（2年）87% 生徒（3年）95% 保護者69%

*生徒指導の三機能チェックリスト「よくしている」と答えている割合

○学活や終学活では、各行事や一日の自らの行動を振り返る場を設けている。教員14%

○学級の係活動や掃除分担では、自分たちで一人一役になるように考え方決めさせている。

教員71%

○一人一人の生徒の「いいところ」を見つけ、その生徒に伝えている。教員43%

自己評価

分析（成果と課題）

- 生徒の学年が上がるにつれて挑戦心や自己改善の意識が高まる傾向が見られるが、読書習慣は逆に低下する傾向にある。保護者の回答は全体的に生徒よりも低い割合を示している。
- 国語科を中心とした「ビブリオバトル」などの図書館活用の取り組みで生徒への読書意識の向上が見られた。3年生の数値が低いのは、朝読書の時間に受験を意識しているのか、自主学習をしている生徒が増えている傾向があるが、主体的に読書することを習慣化させるために活動を継続したい。

分析を踏まえた取組の改善

- 2年生の夢や目標に対する意識が低いことから、夢や目標を持つことの重要性を強調するキャリア教育やワークショップを実施していくことが有効だと考える。保護者と連携して家庭でも目標設定をサポートできる体制を整える。
- さまざまな図書に触れるよう情報収集の機会継続を教科学習と連携して行う。
- 難しい課題に挑戦する機会を増やし、成功体験を積むことで自信を育て、失敗を学びの一部と捉え、失敗から学ぶことの重要性を強調する方法も考えたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- 学校評価アンケート ○生徒指導の三機能チェックリスト【生活場面】

学校関係者による意見・支援策

将来の展望が持てていない生徒が多いこともあり、職場体験や職場の方の講演を行う方が良い。キャリア教育を進めた方が良い。

最終評価**各種指標結果**

*学校評価アンケート「よくできている」「だいたいできている」と答えている割合

「読書（朝読書）の習慣がついていますか。」

生徒（1年）66.2% (-9.2) 生徒（2年）68.7% (-14.3) 生徒（3年）59.4% (-1.6)
保護者 40.4% (-1.6)

「将来の自分の夢や目標を持っていますか。」

生徒（1年）73.4% (-2.6) 生徒（2年）71.5% (+1.5) 生徒（3年）87.5% (+8.5) %
保護者 71.6% (-2.4)

「難しいことでも、失敗を恐れないで、挑戦していますか。」

生徒（1年）72.6% (+0.6) 生徒（2年）77.7% (+2.7) 生徒（3年）78.1% (-3.9)
保護者 61.2% (+5.2)

「自分がよりよくなるように考え、行動・実践していますか。」

生徒（1年）83.9% (-0.1) 生徒（2年）83% (-4) 生徒（3年）93.8% (-1.2)
保護者 67.6% (-1.4)

*生徒指導の三機能チェックリスト「よくしている」と答えている割合

○学活や終学活では、各行事や一日の自らの行動を振り返る場を設けている。教員 33%

○学級の係活動や掃除分担では、自分たちで一人一役になるように考え方をさせている。

教員 54%

○一人一人の生徒の「いいところ」を見つけ、その生徒に伝えている。教員 37%

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

・読書の習慣については、全学年で「読書（朝読書）の習慣がついている」と答えた割合が減少しています。特に2年生が多く（-14.3%）保護者の評価も減少している。（-1.6%）

・1年生と保護者の「将来の夢や目標を持っている」と答えた割合が減少している。特に1年生の減少が目立つ（-2.6%）。2. 3年生については増えていることから、キャリア教育が充実していると捉えることが出来る。

・振り返りの場を設ける教員の割合が増加しているものの、まだ33%に留まっているため、さらなる充実が求められる。

・学級の係活動や掃除分担において、自主性を重視する教員の割合が減少している、現状を見ても特別区域の掃除がおろそかになることや、教師の都合で生徒が動けないことがあり、主体性をもって、生徒自らが動ける組織を構築する必要がある。

・「いいところ」を見つけ伝えることが、6%減少していることで、生徒が自分の良い点を認識する自己肯定感を高めることができることが考えられる。そのため教職員が生徒の良いところを生徒に伝えることを意識し、実践することで、生徒が自信を持って学習や活動に取り組めるようにしていかなければならない。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の時間を増やすと、生徒が読書に集中できる傾向にあるため、来年度の朝読書の時間を検討する。また、読書の楽しさを伝えるイベントや選書会を行い、学校図書館の利用を促進し、興味を引く本を揃える。 ・将来の夢や目標の支援のため、1年生から系統立てたキャリア教育を行い、2年生のチャレンジ体験、3年生の進路選択につなげ、将来の目標を見出す学習を行う。 ・失敗を恐れない文化の醸成を目指し、失敗を学びの一部と捉え、挑戦することの重要性を強調する。そのためには、総合的な学習の時間での探究活動が最適であると考えるため、3年間を見据えた学習を確立することが必要である。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で朝読書することで、本を読む習慣が身につき、家での会話にもつながっている。

(5) 教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスを遵守し、働きやすい職場づくり ・超過勤務月 45 時間以内の順守など働き方改革の推進
	<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 出退勤システムの活用による日ごとの勤務時間調整の推進 ② ワークライフバランスを意識した職務遂行の励行 →定時退校日にとどまらず、<u>逆算と配分の意識の徹底</u> ③ 環境整備促進による、校務の効率化 (ICT の活用促進)
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>○勤務時間調査 ○年休取得率</p>

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <table> <tbody> <tr> <td>超過勤務時間平均</td><td>4月 52.25 h</td><td>5月 50.45 h</td><td>6月 45.48 h</td><td>7月 43.17 h</td></tr> <tr> <td></td><td>8月 13.43 h</td><td>9月 43.40h</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>45h 超過教職員数</td><td>4月 19人</td><td>5月 17人</td><td>6月 13人</td><td>7月 12人</td><td>8月 0人</td><td>9月 14人</td></tr> <tr> <td></td><td>年休取得</td><td></td><td>夏季休業中の夏休取得率</td><td>100%</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	超過勤務時間平均	4月 52.25 h	5月 50.45 h	6月 45.48 h	7月 43.17 h		8月 13.43 h	9月 43.40h			45h 超過教職員数	4月 19人	5月 17人	6月 13人	7月 12人	8月 0人	9月 14人		年休取得		夏季休業中の夏休取得率	100%		
超過勤務時間平均	4月 52.25 h	5月 50.45 h	6月 45.48 h	7月 43.17 h																					
	8月 13.43 h	9月 43.40h																							
45h 超過教職員数	4月 19人	5月 17人	6月 13人	7月 12人	8月 0人	9月 14人																			
	年休取得		夏季休業中の夏休取得率	100%																					
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比べると平均勤務時間は、 4月-2h、5月+4h、6月-1h、7月+4h、8月-5h、9月-5h となっている。 45時間超過勤務者は 4月+5人、5月+3人、6月+2人、7月+1人、9月-1人 となっている。 年度当初の繁忙期への対策を講じる必要がある。 																								

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の超過勤務の教職員においては、休日の部活動が要因で傾向であるため、外部コーチや部活動指導員の人員を増やす制度が確立できた。 ・欠席連絡アプリ「すぐーる」を活用することによって、電話連絡の削減と採点ソフトの活用により、採点時間と採点ミスなど職務時間の短縮に効果が見られる。 ・電話対応時間 8時から 18時までとし、保護者にも浸透してきている。勤務時間短縮促進のため、最終的には8時30分から17時までを目標とする。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間調査・年休取得率

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

電話対応や懇談会なども勤務時間内の対応でよいと思う。学校がなんでもやりすぎていて、勤務条件的に気の毒である。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <table> <tbody> <tr> <td>超過勤務時間平均</td><td>4月 52.25 h</td><td>5月 50.45 h</td><td>6月 45.48 h</td><td>7月 43.17 h</td></tr> <tr> <td></td><td>8月 13.43 h</td><td>9月 43.40h</td><td>10月 46.39h</td><td>11月 41.24h</td><td>12月 34.25h</td></tr> <tr> <td></td><td>1月 35.35 h</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>45h 超過教職員数</td><td>4月 19人</td><td>5月 17人</td><td>6月 13人</td><td>7月 12人</td><td>8月 0人</td><td>9月 14人</td></tr> <tr> <td></td><td>10月 20人</td><td>11月 15人</td><td>12月 8人</td><td>1月 7人</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>年休取得</td><td>夏休、年休取得推進日の年休取得率</td><td>100%</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	超過勤務時間平均	4月 52.25 h	5月 50.45 h	6月 45.48 h	7月 43.17 h		8月 13.43 h	9月 43.40h	10月 46.39h	11月 41.24h	12月 34.25h		1月 35.35 h					45h 超過教職員数	4月 19人	5月 17人	6月 13人	7月 12人	8月 0人	9月 14人		10月 20人	11月 15人	12月 8人	1月 7人			年休取得	夏休、年休取得推進日の年休取得率	100%				
超過勤務時間平均	4月 52.25 h	5月 50.45 h	6月 45.48 h	7月 43.17 h																																			
	8月 13.43 h	9月 43.40h	10月 46.39h	11月 41.24h	12月 34.25h																																		
	1月 35.35 h																																						
45h 超過教職員数	4月 19人	5月 17人	6月 13人	7月 12人	8月 0人	9月 14人																																	
	10月 20人	11月 15人	12月 8人	1月 7人																																			
年休取得	夏休、年休取得推進日の年休取得率	100%																																					

自
己
評
価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・昨年度と比べると平均勤務時間は、4月-2h、5月+4h、6月-1h、7月+4h、8月-5h、9月-5h 10月-6.9h 11月 -1.2h 12月+0.9h 1月-0.3h となっている。

45時間超過勤務者は

- 4月+5人、5月+3人、6月+2人、7月+1人、9月-1人 10月 +1人 11月+3人 12月+3人 1月-5人 となっている。

4月から12月にかけて、超過勤務時間が徐々に減少していることがわかる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・特定の月に業務が集中してしまう。業務の特性もあり、年間を通じて業務を均等化できない部分もあるため、評価評定をつける時期、部活動の公式戦、年度当初などの時期にどれだけ超過を減らせるかである。そのためには、採点ソフトの活用、部活動指導員や外部コーチの人員を増やす。校務支援員増員など人件費の問題もあるが早期の対応が望まれる。
- ・部活動や懇談会、定期の家庭訪問、電話対応などは、勤務時間内に設定しなければ、実際の働き方改革にはならない。そのためには、教職員の増員と早出遅出などの時間差をつけなければ、勤務時間内に生徒・保護者・地域との対応はできない。今後の検討課題である。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革が少しでも進んでいることは良いことであると思う。 ・地域の声で人員を増やせないのか。 ・教職員が自分の子供の面倒を見られないのであれば、生徒にも目がいかないので、働き方改革は進めてほしい。
-----------------------------	---

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止、早期発見・早期解決
具体的な取組	<p>「学校いじめの防止等基本方針」に同じ</p>
(取組結果を検証する) 各種指標	<p>○学校評価アンケート　　○いじめアンケート</p> <ol style="list-style-type: none"> ① <u>全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努める。</u> ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。 ③ いじめに係る既存の「学校評価：生徒アンケート項目」を活用し、経年変化を比較し教職員が共有し、予防、見逃しのない観察、適切な対応を迅速に行う。 ④ 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。 ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。

中間評価

各種指標結果	<p>*学校評価アンケート「よくできている」「だいたいできている」と答えてる割合 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」</p> <p>生徒（1年）98% 生徒（2年）95% 生徒（3年）95% 保護者99%</p> <p>「他者の考え方や個性など多様性を尊重し、協働することができますか。」</p> <p>生徒（1年）91% 生徒（2年）94% 生徒（3年）97% 保護者93%</p> <p>「学校では安心して、楽しく過ごせていますか。」</p> <p>生徒（1年）85% 生徒（2年）89% 生徒（3年）96% 保護者90%</p> <p>*いじめアンケートから「からかわれる、悪口やいやなことを言われる。」</p> <p>全校生徒の 5% があると答えてる</p> <p>*「いじめをゆるさない学級・学年集団作りができている。」の項目（教職員）に関して、肯定的な回答が86%であった。</p> <p>*いじめ不登校対策委員会を月1回は開催し、相談内容や子供の訴えを共有した。</p> <p>*学校運営協議会（10月）にて説明。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの生徒と保護者がいじめを許さないという強い意識を持っています。 ・学年が上がるにつれて多様性を尊重する意識が高まっていることがわかります。 ・学年が上がるにつれて学校生活に対する安心感と楽しさが増していることがわかります。

学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がるにつれて安心感が増しているが、特に1年生に対しては、学校に慣れるために小6時に小中連携を強化した取り組みを行う。 ・生徒が異なる意見や視点を共有し、協力して問題解決に取り組むディスカッションやグループワークを取り入れ、他者の考えを尊重する姿勢を育みたい。 ・学校が安心して過ごせる環境やいじめ問題について継続して取り組んでいきたい。 ・教職員間で、いじめを見逃さないという気持ちをもって、生徒と接することを心掛けたい。

最終評価	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	○学校評価アンケート　　○いじめアンケート

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	子どもがいじめに対してしっかりと捉えている。いじめをゼロにするというよりも、いじめを見逃さない姿勢を継続してほしいという意見が出た。

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果																	
	<p>*学校評価アンケート「よくできている」「だいたいできている」と答えてる割合 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」</p> <table> <tbody> <tr> <td>生徒（1年）98.4% (+0.4)</td> <td>生徒（2年）98.2% (+3.2)</td> <td>生徒（3年）98% (+3)</td> </tr> <tr> <td>保護者 100% (+1)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「他者の考え方や個性など多様性を尊重し、協働することができますか。」</p> <table> <tbody> <tr> <td>生徒（1年）93.6% (+2.6)</td> <td>生徒（2年）99.1% (+5.1)</td> <td>生徒（3年）97.9% (+0.9)</td> </tr> <tr> <td>保護者 91.2% (-1.8)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「学校では安心して、楽しく過ごせていますか。」</p> <table> <tbody> <tr> <td>生徒（1年）91.2% (+6.2)</td> <td>生徒（2年）94.7% (+5.7)</td> <td>生徒（3年）95.9% (-0.1)</td> </tr> <tr> <td>保護者 91.2% (+1.2)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>*いじめアンケート</p> <p>○「からかわれる、悪口やいやなことを言われる」と回答している生徒が全体の6%弱いる。 「今はどうですか」の問いに、よくある、時々あると答えた生徒は5%ほど回答した。</p> <p>*いじめ不登校対策委員会、教育相談委員会を月1回、生徒指導委員会、補導部会は毎週1回開催し、相談内容や子供の訴えを共有した。</p>	生徒（1年）98.4% (+0.4)	生徒（2年）98.2% (+3.2)	生徒（3年）98% (+3)	保護者 100% (+1)			生徒（1年）93.6% (+2.6)	生徒（2年）99.1% (+5.1)	生徒（3年）97.9% (+0.9)	保護者 91.2% (-1.8)			生徒（1年）91.2% (+6.2)	生徒（2年）94.7% (+5.7)	生徒（3年）95.9% (-0.1)	保護者 91.2% (+1.2)	
生徒（1年）98.4% (+0.4)	生徒（2年）98.2% (+3.2)	生徒（3年）98% (+3)																
保護者 100% (+1)																		
生徒（1年）93.6% (+2.6)	生徒（2年）99.1% (+5.1)	生徒（3年）97.9% (+0.9)																
保護者 91.2% (-1.8)																		
生徒（1年）91.2% (+6.2)	生徒（2年）94.7% (+5.7)	生徒（3年）95.9% (-0.1)																
保護者 91.2% (+1.2)																		

自己 評 価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに対する意識のとして、生徒のほぼ全員が「いじめはどんな理由があってもいけない」と考えており、特に2年生と3年生で大きな向上が見られる。保護者も100%が同意しており、家庭と学校が一体となっていじめ防止に取り組んでいることが伺える。 ・多様性の尊重と協働の面では、生徒の意識が全体的に高く、特に2年生で大幅な向上が見られる。これにより、生徒間の協力や理解が深まっていることが期待される。 ・生徒の安心感と楽しさが全体的に向上しており、特に1年生と2年生で顕著である。保護者も同様に安心感を持っていることがわかる。 ・生徒たちの意識や満足度が高まっていることは非常にポジティブな成果である。今後もこれらの成果を維持しつつ、課題に対して適切な対策を講じることで、さらに良い学校環境を作り上げ

	<p>いくことが重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達からされたことで、嫌な思いをしたことはありませんかというすべての問いに、1つでもはいと答えたのは全校生徒の7%であり、「今はどうですか」の問いに、よくある、時々あると答えた生徒は5%ほど回答したため、いじめ不登校対策委員会を中心に、学年集団、保護者などと連携しながら、いじめを見逃さない取り組みを進めていきたい。
学校 関係者 評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関する意識が高いことから、これからも継続的にいじめアンケートを行い、いじめを見逃さない指導を行いたい。 ・定例の会議で共有したことを状況に応じて、教職員全体へ報告することを徹底する。 ・いじめを許さない学級・学年作りのために、教職員の人権意識のさらなる向上に努める。 ・日々の生徒の様子把握と家庭との連携を欠かさないように行う。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食をとらない、昼食が食べられない（時間が短い）など食生活が不安定になると、不登校になりやすい。自分の子供がそうであったため、昼食時間を有意義に過ごせる時間にしてほしい。 ・給食を楽しめる方法や食教育にも力を入れてほしい。 ・スクールカウンセラーには大変お世話になっている。時間を増やしてほしい。 ・京都市は食教育が進んでいない。地域に根差した食教育など他府県は行っている。